

投資カレンダー2020 特別付録

徳間書店

『投資カレンダラー』を読み解く “5つのポイント”

『投資カレンダラー』は市場が持つ傾向を大岩川源太が独自の手法で分析し、解説したものをまとめている。中でも、市場傾向を読むうえで大岩川源太が重要視する“5つのポイント”を記した。このポイントは市場の常識的なものでもあるので、投資の際の参考にして欲しい。

ポイント1

市場の「メインプレイヤー」 は誰なのか？

基本的な市場のメインプレイヤーは機関投資家である。巨額の資金を運用する彼らは、それぞれが独特の運用ルールをもつ。決算を始めとする各々の“都合”が市場の騰落に影響を及ぼしやすい。

機関投資家が決算のために行う決済の仕方には、「売却」も「買い戻し」もある。つまり、彼らのポジション
ン次第では市場動向が真逆に向かうこともあるため、

善悪確言を巨田隆吉の描きこみで注意を払うべき。

ポイント3

「SQ」の2、3日前には 注意しよう！

日経平均先物やオプションを利用する裁定取引が市場の動向を左右する。その清算日である「SQ」の2、3日前は、様々な思惑もあり相場が荒れやすい。

市場のメインプレイヤーである外資系投資家のポジションによっては大きく動くので注意が必要だ。

ポイント4

「月の20日」とは何か？

特に、決算月の日安として、外資系ヘッジファンドは「5月、11月」、欧州系ファンドは「6月、12月」、国内の機関投資家は「3月、9月」と覚えておこう。

しかし、個人投資家が好む小型株は機関投資家が買えないものが多く、市場全体の流れにはさほど影響されない。

ポイント2

「45日ルール」を覚えておこう!

投資家がヘッジファンドに解約を申し入れるためには四半期末の45日前までに行うルールが存在する。

(運用ファンドによっては「30日ルール」も存在する)。その処分量によっては市場に影響を与えやすい。

例えば、3月末までに解約する場合は、2月中旬までに解約を申し入れる必要がある。その処分量が多い場合は、2月中旬に向かって市場は重石が乗ったように軟調になることがある。これが「節分天井」といったアナリーの原因と考えられ、正月休暇明けに始まった新規の買いの流れが「節分」辺りを境に売り勢に押されることで起きる。

毎月「20日」は機関投資家の決済が多いと言われている日。そのため、20日を基準に市場を見ると相場の流れを把握しやすい。機関投資家が決済期日までに処分する売り物の量が多ければ、市場は軟調になる。その処分売りが済めば市場の流れは変わりやすく、逆に相場が上昇傾向であれば、この20日近辺が天井になる場合もある。毎月、20日前後の市場動向を注意してみると、相場傾向は把握しやすい。

ポイント5

「ポイントの日」には何が起ころ?

大岩川源太が厳選した「ポイントの日」は市場の變化日とも言える。今までの流れが完全に変わる大きな節目、いわゆる「天底」といった転換点になることもあるし、トレンド上の一時的な下落やリバウンドになることもある。また、今までの流れが継続的に加速する場合もある。

ポイントの日を境に何らかの“兆し”が出やすく、その後の市場の方向性を判断するヒントになるので、相場の流れや投資の物色対象をチェックすること。

2020 January

令和2年
1月

過去25年間の各指標の勝敗表

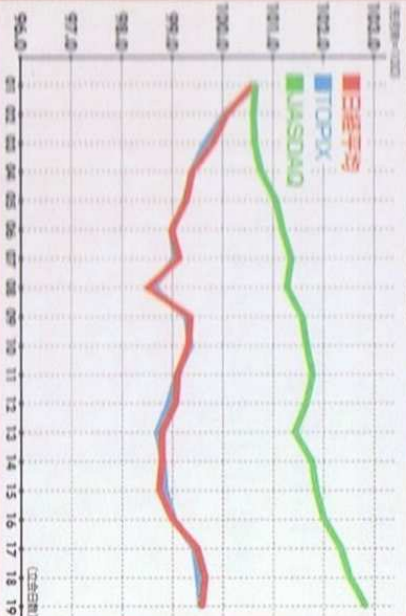
指標	勝敗	勝率	12カ月中の順位
日経平均	10勝15敗	40.0%	9位
JASDAQ	19勝6敗	76.0%	1位
外資系動向	17勝8敗	68.0%	7位

※勝ち(○)=月足陽線、外資買越し(月間ベース)

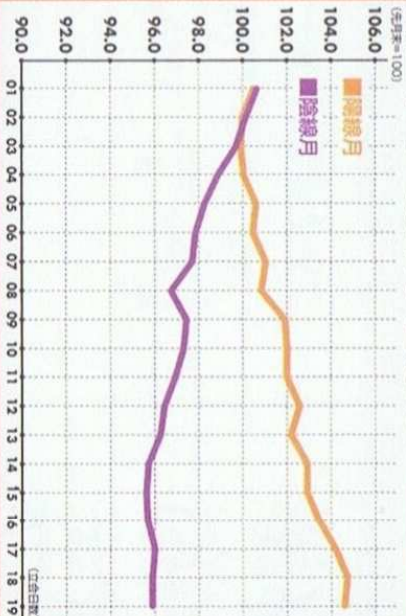
過去10年間の月足&外資系動向

	05年	06年	07年	08年	09年	10年	11年	12年	13年	14年
月足陽線	X	O	O	X	X	X	X	X	O	X
外資の買越し	O	O	O	O	X	X	O	O	O	X

主要指数の平均推移



日経平均の陽線月・陰線月



1月の傾向

- ①年初は昨年末の地合いが続かず、反対売買が多い。
- ②3連休後から外資系投資家が動き出し、方向性が付きやすい。
- ③日銀の金融政策やFOMCなどを意識しない物色展開になると20日前後で市場が変化しやすい。

源太の作戦

昨年末に警戒して反対売買が済んでいけば、新春相場は素直に動く可能性がある。しかし、通常は外資系投資家などの買い主体は、余程の理由がなければ動かない。通常であれば、彼らは3連休後から動き出し、はつきりとした方向性が分かるのは、その週末辺り。

Memo

Blank lined area for notes.

注視ポイント

- 1 昨年末の方向性
- 2 成人の日以降の外資系動向
- 3 20日前後の過熱感
- 4 FOMCの方針変化の有無

気になる3日間の勝敗表

大抵会からの3日間 ※2日目の勝率率に注目

	05年	06年	07年	08年	09年	10年	11年	12年	13年	14年
1日目	O	O	X	O	O	O	O	O	X	X
2日目	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
3日目	O	O	O	O	O	O	O	X	X	O

※勝ち(○)=日足陽線

兆しがあるとしたら前日の15日後場がポイント。ここで1月の市場の方向性が決まるだろう。過熱感の有無がその方向性の継続のポイント。その後は売られても買われてもFOMC前後で市場が変化する。相場に勝つための基本は“事実を追う”こと。市場の方向性を勝手に決め過ぎない。

12月
 2019
 1 2 3 4 5 6 7
 8 9 10 11 12 13 14
 15 16 17 18 19 20 21
 22 23 24 25 26 27 28
 29 30 31

2020 1月

2020
 2月
 1 2 3 4 5 6 7 8
 9 10 11 12 13 14 15
 16 17 18 19 20 21 22
 23 24 25 26 27 28

日	月	火	水	木	金	土
29	30	31	1 <small>元日</small>	2	3	4
5	6	7	8	9 <small>SQ</small>	10	11 
12	13 <small>成人の日</small>	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25 
26	27	28	29	30	31	1 <small>春節</small>

2020 February

令和2年 如月

2

過去25年間の各指標の勝敗表

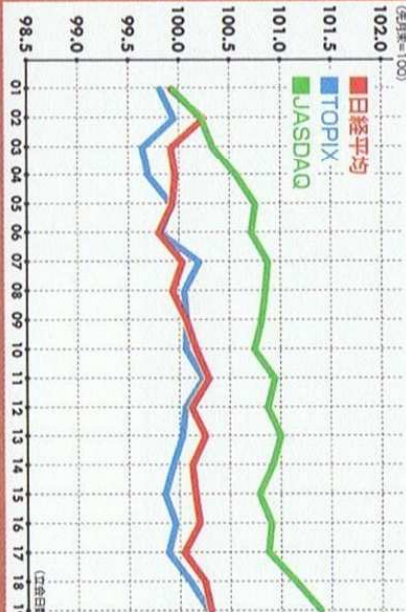
指標	勝敗	勝率	12カ月中の順位
日経平均	14勝11敗	56.0%	3位
JASDAQ	13勝12敗	52.0%	6位
外資系動向	20勝5敗	80.0%	2位

*勝ち(○)=月足陽線、外資買進(月買ペース)

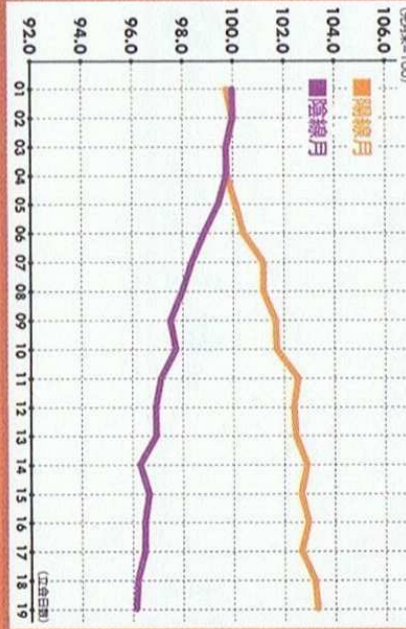
過去10年間の月足&外資系動向

	05年	06年	07年	08年	09年	10年	11年	12年	13年	14年
月足陽線	○	×	○	○	×	×	○	○	○	○
外資の買進し	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○

主要指数の平均推移



日経平均の陽線月・陰線月



2月の傾向

- ① 将来への期待と不安によって、フアンプや金融機関の仕舞いのタイミングが変わるため読みにくい。
- ② 「中国春節」や「45日ルール」*といった需給面の变化で気をつけたい。
- ③ 市場環境の良し悪しによって、投資効率の差が極端になる。

源太の作戦

各国の中央銀行や政策が動くケースが多く、その結果から国内金融機関の決算換金や外国フアンプの売り買いなどに動きが起る。前半は神経質に市場の流れをうかがい、中旬から後半に方向性がはつきりしそう。前半から方向性が出た場合は、

Memo

Blank area for notes.

注視点

- 1 国内外の政策・政治環境
- 2 国内企業の景況感
- 3 投資主体別動向
- 4 裁定残高の確認

気になる3日間の勝敗表

第2立会日からの3日間 *「国分天井」への投資家心理はどうか?

	05年	06年	07年	08年	09年	10年	11年	12年	13年	14年
1日目	×	○	×	○	×	○	○	○	○	×
2日目	×	○	×	×	○	×	×	×	×	×
3日目	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×

*勝ち(○)=日足陽線

*「45日ルール」：フアンプへの売却解禁日

1 日 月 火 水 木 金 土
2020 5 6 7 8 9 10 11
12 13 14 15 16 17 18
19 20 21 22 23 24 25
26 27 28 29 30 31

2020 2月

3 日 月 火 水 木 金 土
2020 8 9 10 11 12 13 14
15 16 17 18 19 20 21
22 23 24 25 26 27 28
29 30 31

日	月	火	水	木	金	土
26	27	28	29	30	31	1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29



建国記念の日

SQ

天皇誕生日




振替休日

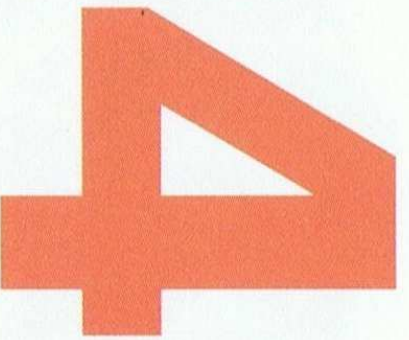


2 日 月 火 水 木 金 土
 2020 2 3 4 5 6 7 8
 9 10 11 12 13 14 15
 16 17 18 19 20 21 22
 23 24 25 26 27 28 29

2020 3月

4 日 月 火 水 木 金 土
 2020 5 6 7 8 9 10 11
 12 13 14 15 16 17 18
 19 20 21 22 23 24 25
 26 27 28 29 30

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10 	11	12 	13	14
15	16	17	18	19	20 <small>春分の日</small>	21
22	23	24 	25	26	27	28
29	30	31	1	2	3	4



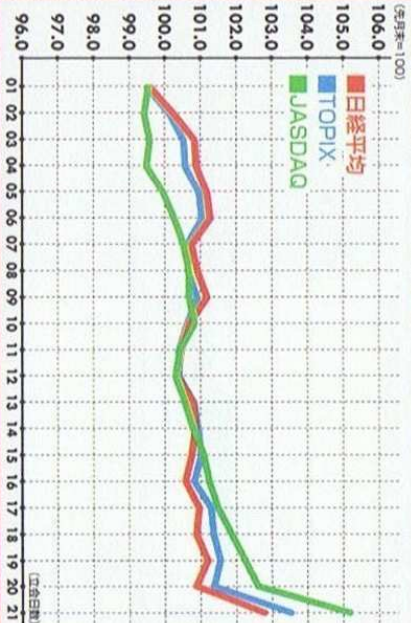
過去25年間の各指標の勝敗表

指標	勝敗	勝率	12か月中の順位
日経平均	14勝11敗	56.0%	3位
JASDAQ	18勝7敗	72.0%	2位
外資系動向	23勝2敗	92.0%	1位

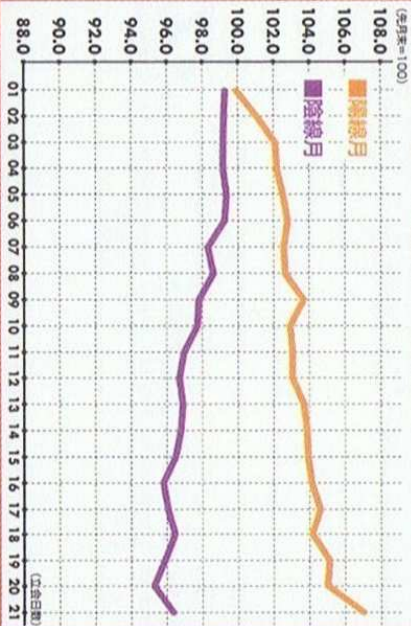
過去10年間の月足&外資系動向

	05年	06年	07年	08年	09年	10年	11年	12年	13年	14年
月足陽線	X	X	O	O	O	X	O	X	O	X
外資の買越し	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O

主要指数の平均推移



日経平均の陽線月・陰線月



4月の傾向

- ① 月初に海外の休みがあり、リズムを崩しやすい。
- ② 中旬以降は外資系投資家のポジションの処分状況に左右される。
- ③ 良くも悪くも連休前に偏る傾向があり、年末と同様に連休明けから市場の流れが変わりやすい。

源太の作戦

今年の連休は長いいため、処分すべき流れは早く出ると思われる。月初のNNYやロンブン市場の休場は外資系動向を重視する投資家にとっては動きにくく、短期売買的な思考になりやすい。
基本的には3月後半から始まる流れは、SQの10日まで

Memo

Blank lined area for notes.

注視ポイント

- 1 個人投資家のモチベーション
- 2 ヘッジファンドのポジション確認
- 3 日銀の動向に対する市場の興味
- 4 為替・商品市況の動向

気になる3日間の勝敗表

新年度スタートの3日間	05年	06年	07年	08年	09年	10年	11年	12年	13年	14年
1日目	O	O	X	O	O	O	X	X	X	X
2日目	O	X	O	O	O	X	X	X	X	X
3日目	O	X	O	O	X	X	X	X	X	O

変化しない、たどえ全体が強くて外資系の動きには注意する。
月内の注文は20日基準であるが、20日は月曜日という点から月替わりまでが長い。そのため月替わりの27日に需給動向を見る。

3 日 月 火 水 木 金 土
 2020 1 2 3 4 5 6 7
 8 9 10 11 12 13 14
 15 16 17 18 19 20 21
 22 23 24 25 26 27 28
 29 30 31

2020 4月

5 日 月 火 水 木 金 土
 2020 3 4 5 6 7 8 9
 10 11 12 13 14 15 16
 17 18 19 20 21 22 23
 24 25 26 27 28 29 30
 31

日	月	火	水	木	金	土
29	30	31	1	2	3	4
5	6	7	8 	9 	10	11
12	13	14	15	16	17	18
Easter	Easter				Easter	Easter
19	20	21	22	23 	24	25
26	27	28	29 <small>昭和の日</small>	30	1	2



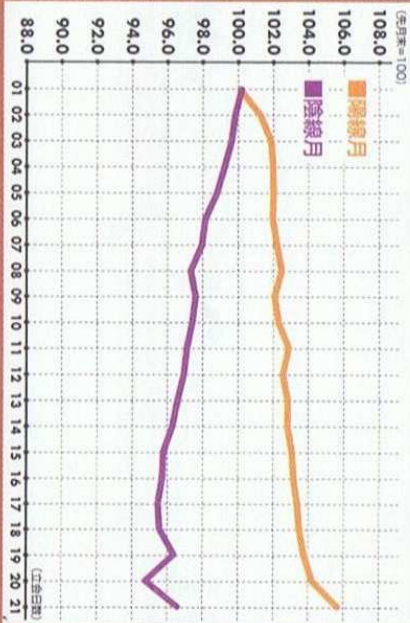
過去25年間の各指標の勝敗表

指標	勝敗	勝率	12カ月中の順位
日経平均	12勝13敗	48.0%	7位
JASDAQ	14勝11敗	56.0%	5位
外資系動向	18勝7敗	72.0%	5位

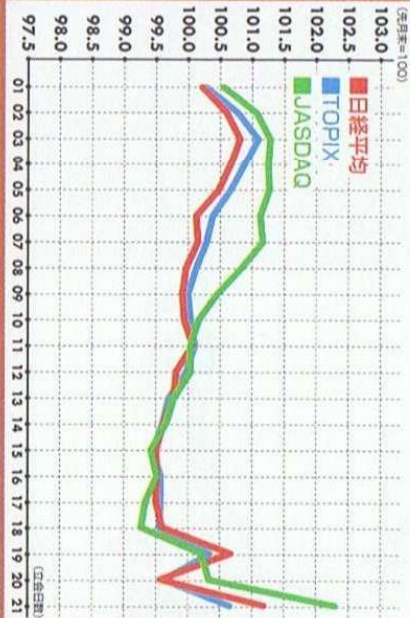
過去10年間の月足&外資系動向

	05年	06年	07年	08年	09年	10年	11年	12年	13年	14年
月足陽線	○	×	○	○	○	×	×	×	×	○
外資の買越し	○	×	○	○	○	○	×	○	×	○

日経平均の陽線月・陰線月



主要指数の平均推移



Memo

Blank lined area for notes.

注視ポイント

- 1 個人投資家のモチベーション
- 2 外資系の裁定残高の状況
- 3 海外の情勢
- 4 金融政策を含めた世界経済の状況

気になる3日間の勝敗表

「こどもの日」後の3日間	05年	06年	07年	08年	09年	10年	11年	12年	13年	14年
1日目	○	×	○	×	○	×	○	×	○	×
2日目	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○
3日目	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○

5月の傾向

- ① 市場の動きは連休後に変化が出やすい。
- ② 外資系ヘッジファンドの決算が多い月であるため極端な動きになりやすい。
- ③ 月替わり後は、外資系ヘッジファンドの新規セッティングなどで上昇しやすい環境になる。

源太の作戦

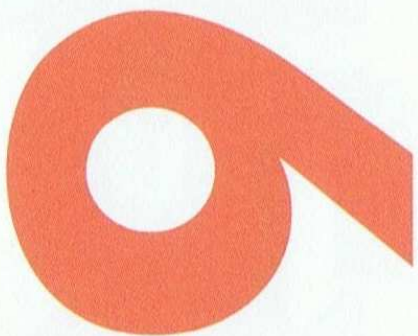
外資系投資家の占有率が増える。市場は公的な運用資金の配分があるまでは買い手が不在のため動きにくい。個人投資家が買い手になりやすくなる。出来高水準が高ければそれも乗り切れる。しかし、市場が閑散のときはヘッジファンドなどの処分が市場動向を決めるケースが多くなる。なかなか良好な結果にはならない。15日の週末の動きで市場の投資家心理を計り、20日以降の投資計画を立てる。市場が変化するとすれば19日。処分が急いで来るなら投げ買いし、1巡する。その後、25日の外資系動向が鍵を握る。

4 日 月 火 水 木 金 土
2020 5 6 7 8 9 10 11
12 13 14 15 16 17 18
19 20 21 22 23 24 25
26 27 28 29 30

2020 5月

6 日 月 火 水 木 金 土
2020 7 8 9 10 11 12 13
14 15 16 17 18 19 20
21 22 23 24 25 26 27
28 29 30

日	月	火	水	木	金	土
26	27	28	29 昭和の日	30	1	2
3 憲法記念日	4 みどりの日	5 こどもの日	6 振替休日	7 五月五日 SQ	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23 新月
24	25	26	27	28	29	30
31	1	2	3	4	5	6



過去25年間の各指標の勝敗表

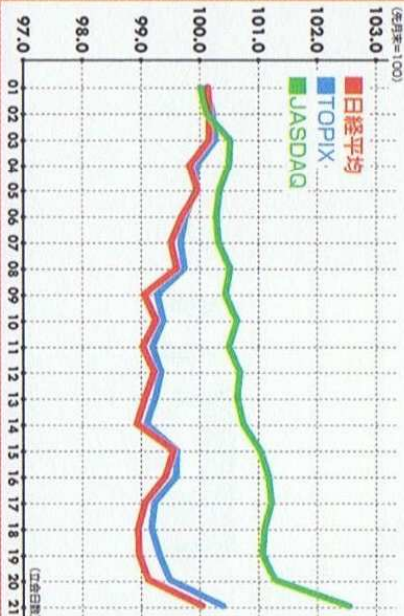
指標	勝敗	勝率	12カ月中の順位
日経平均	14勝11敗	56.0%	3位
JASDAQ	15勝10敗	60.0%	4位
外資系動向	16勝9敗	64.0%	11位

*勝ち(○)=月足陽線、外資買越し(月間ベース)
*負け(×)=月足陰線、外資買越し(月間ベース)

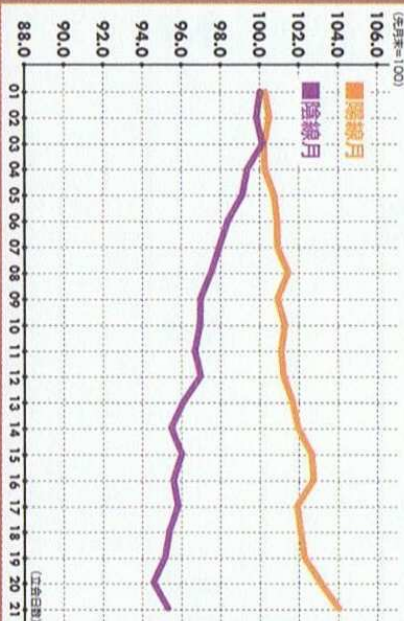
過去10年間の月足&外資系動向

	05年	06年	07年	08年	09年	10年	11年	12年	13年	14年
月足陽線	○	×	○	×	○	×	○	○	○	○
外資の買越し	○	×	○	○	○	○	×	○	×	○

主要指数の平均推移



日経平均の陽線月・陰線月



6月の傾向

- ① ヘッジファンドの動き方次第で上下の動きが極端になる。
- ② 第1四半期の景気動向から先回りの投資が始まる。
- ③ 月末に株価が上がりやすい。

源太の作戦

ヘッジファンドの動きを知るために為替や商品市況、各国の株価などを幅広く見る必要がある。今年には月初からメジャーSQまでに時間があるため、極端なスタートになれば、SQ前に方向が反転することも。しかし、大きな流れとしては、月初に出来た方向性は秋口まで変化はない。

Memo

Blank lined area for notes.

注視ポイント

- 1 月初の商品・為替市況
- 2 外資系動向
- 3 第1四半期の決算見通し
- 4 夏の天候予測

気になる3日間の勝敗表

月内最終日ははさんだ3日間 ※近年、メジャーSQ後の月替わりは勝線が多い

	05年	06年	07年	08年	09年	10年	11年	12年	13年	14年
1日目	○	○	×	○	×	○	×	○	×	○
2日目	×	○	×	○	×	×	×	×	×	×
3日目	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×

*勝ち(○)=日足陽線


まずはヘッジファンドがセッティングを完了する3日が一つの鍵。次にSQ値の決まった後の株価の動きに警戒するため12日の市場動向も大事。そして、「月の20日」※を意図する19日の金曜日か非常に重要なポイントになり、それらを越えて22日から新しい市場の流れが始まる。

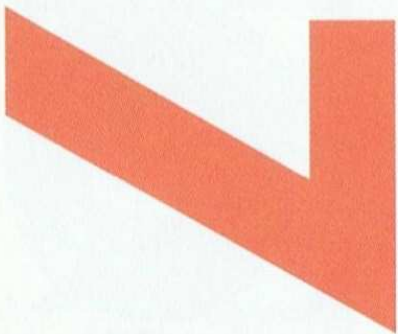
*1月の20日： 電線投資家の決済の日、日替わりは勝線が多い。21日はSQ後の市場動向を注視する。

5 日 月 火 水 木 金 土
 2020 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

2020 6月

7 日 月 火 水 木 金 土
 2020 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

日	月	火	水	木	金	土
31	1	2	3	4	5	6 
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18 	19	20
21  夏至	22	23	24	25	26	27
17時頃に部分日食	29	30	1	2	3	4
28						



過去25年間の各指標の勝敗表

指標	勝敗	勝率	12カ月中の順位
日経平均	10勝15敗	40.0%	9位
JASDAQ	10勝15敗	40.0%	8位
外資系動向	17勝8敗	68.0%	7位

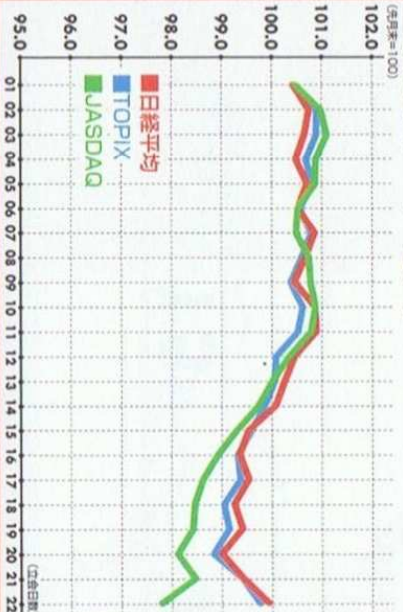
過去10年間の月足&外資系動向

	04年	05年	06年	07年	08年	09年	10年	11年	12年	13年
月足陽線	X	O	X	X	X	O	O	X	X	X
外資の買越し	O	O	O	O	O	X	O	O	O	O

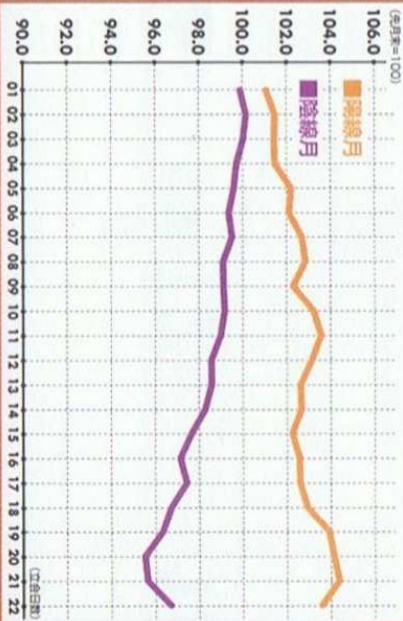
注視点

- 1 月初の外資系動向
- 2 「海の日」以後の市場の変化
- 3 後半の下落には手を出さない
- 4 FOMCの動向が重要

主要指数の平均推移



日経平均の陽線月・陰線月



7月の傾向

- 1 月初の市場リズムは難解。
- 2 中旬から市場の方向が変化しやすい。
- 3 後半は第1四半期決算に伴う個別物色の動きによって、短期売買が増える。
- 4 7月下旬の相場展開は8月相場の兆しになりやすい。

源太の作戦

月初は市場のリズムに合わせにくい、外資系動向や個人投資家の心理が分かれば意外に単純かもしれない。ただ、そのパターンに慣れた頃には市場は変調をきたし、中旬には新たな市場に向かって流れが生まれる。3日は市場に「感情」が出て来るから2日のニュアンス

Memo

Blank memo area with horizontal lines.

気になる3日間の勝敗表

「海の日」後からの3日間	04年	05年	06年	07年	08年	09年	10年	11年	12年	13年
1日目	X	O	X	X	O	O	O	X	O	O
2日目	O	O	X	X	O	O	X	X	X	O
3日目	X	X	O	O	O	O	O	O	X	O

は重視しよう。その傾向はSQで迎えてピークになり、それ以後は個人投資家の投資マインドが市場を左右する。それでも外資系や運用者が主導権を握るようなら、市場の方向性は相当はつきりしているはず。21日の3連休明けからの外資系動向や運用者の動きを掴み、その後は順張り。

6 日 月 火 水 木 金 土
 2020 1 2 3 4 5 6
 7 8 9 10 11 12 13
 14 15 16 17 18 19 20
 21 22 23 24 25 26 27
 28 29 30

2020 7 月

8 日 月 火 水 木 金 土
 2020 2 3 4 5 6 7 8
 9 10 11 12 13 14 15
 16 17 18 19 20 21 22
 23 24 25 26 27 28 29
 30 31

日	月	火	水	木	金	土
28	29	30	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	1



第32回夏季 東京
 オリンピック
 開催

8

過去25年間の各指標の勝敗表

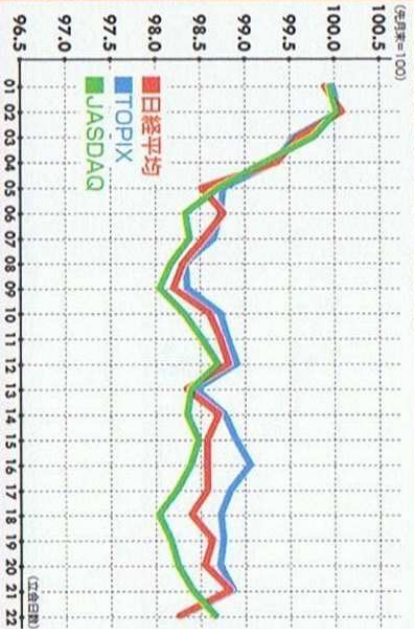
指標	勝敗	勝率	12カ月中的順位
日経平均	10勝15敗	40.0%	9位
JASDAQ	10勝15敗	40.0%	8位
外資系動向	17勝8敗	68.0%	7位

※勝ち(○)=月足騰値・外資買増し(月勝ペーシ)

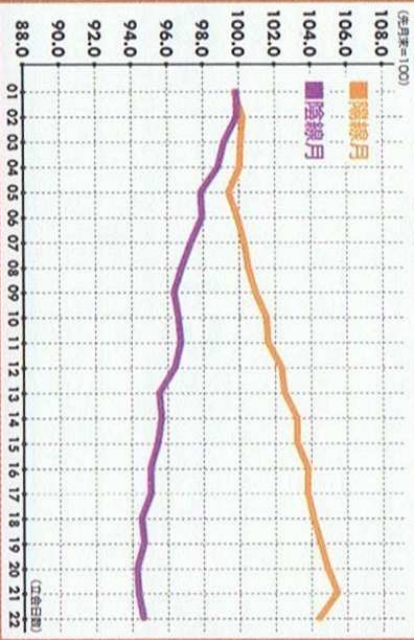
過去10年間の月足&外資系動向

	04年	05年	06年	07年	08年	09年	10年	11年	12年	13年
月足騰値	X	O	O	X	X	O	X	X	O	X
外資の買増し	O	O	O	O	O	O	O	X	X	X

主要指数の平均推移



日経平均の陽線月・陰線月



8月の傾向

- 前半は一方向の極端な動きになりやすい。
- 月初は市場の強弱に関係なく、換金傾向になる。
- お盆前の円高は気にしない。
- 中旬以降は第1四半期決算の結果が重要視される。

源太の作戦

夏期休暇によって市場参加者は少ない。そのため、一方向に動く方向転換の舵が取りにくく、市場判断の正誤にかかわらず極端な上下の動きになる。
前半で起こった動きが激しいほど、中旬以降の動きは穏やかになる。通常であれば、

Memo

Blank space for notes.

注視ポイント

- 7月後半での“市場の見通し”
- 第1四半期の企業業績と発表後の動き
- 9月の株式権利の確認
- 日本の政局

気になる3日間の勝敗表

お盆休み(12~16日)の3日間 ※期間傾向だが、時には大きく上下する

	04年	05年	06年	07年	08年	09年	10年	11年	12年	13年
1日目	O	X	O	O	X	O	X	O	O	O
2日目	X	O	X	O	O	O	O	O	O	O
3日目	X	X	O	X	O	O	O	X	X	X

お盆以降は9月相場に備える傾向にあるため、国内の金融機関のマインドに支配された需給相場になりやすい。前半に見落とされた個別株の決算内容が後半から見直されることも多い。それは、市場参加者が増えるにしたがって冷静な評価が始まるからだ。

7 日 月 火 水 木 金 土
2020 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

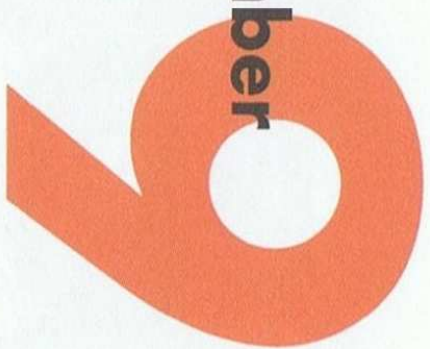
2020 8月

9 日 月 火 水 木 金 土
2020 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30

日	月	火	水	木	金	土
26	27	28	29	30	31	1
2	3	4 	5	6	7 	8
9	10 <small>山の日</small>	11	12	13	14	15
東京オリンピック閉会式						
16	17	18	19 	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31	1	2	3	4	5

2020 September

令和2年
長月



過去25年間の各指標の勝敗表

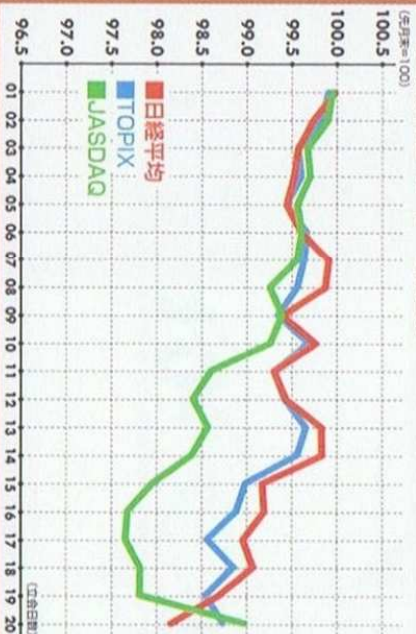
指標	勝敗	勝利率	12カ月中の順位
日経平均	10勝15敗	40.0%	9位
JASDAQ	10勝15敗	40.0%	8位
外資系動向	11勝14敗	44.0%	12位

※勝ち(○)=月足陽線、外資買越し(月換ヘーグ)

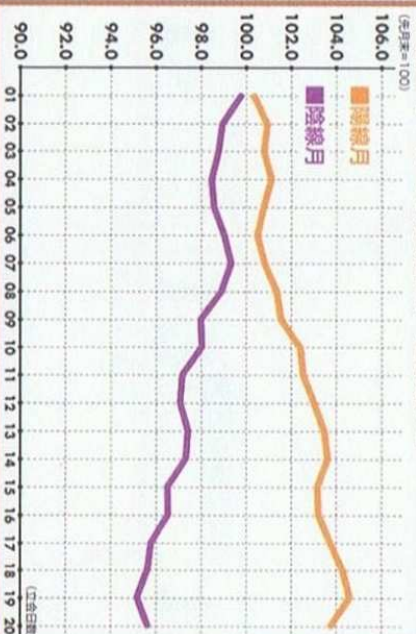
過去10年間の月足&外資系動向

	04年	05年	06年	07年	08年	09年	10年	11年	12年	13年
月足陽線	X	○	○	○	X	X	X	○	○	○
外資の買越し	○	○	○	○	X	X	X	○	X	○

主要指数の平均推移



日経平均の陽線月・陰線月



9月の傾向

- ① 連休に対する心理に注意。
- ② 国内金融機関は中間決算のため、売買に制約がある。
- ③ 外資系金融機関も決算に向けて処分型の傾向になる。

源太の作戦

後半の5連休前のどこかで処分売りが来るという見方が基本。いずれにしても、ポイントには第3週と考えられる。市場が弱ければ、前半から処分が進み、強ければ最後まで処分は出にくい。どちらにしても7日のNYの休場が気になるため、前週3日の後場の動きに

Memo

Blank lined area for notes.

注視ポイント

- 1 6月以降の外資系ポジション
- 2 金融系の動向(決算対策の傾向)
- 3 世界金融・政局に注意
- 4 企業決算の状況

気になる3日間の勝敗表

※勝ち(○)=日足
※月内最終日をさんだ3日間 ※月内最終日と月替わり初日は相場が逆になりやすい

月内最終日	04年	05年	06年	07年	08年	09年	10年	11年	12年	13年
1日目	X	○	○	○	○	○	○	X	X	○
2日目	X	X	X	○	○	○	○	○	○	X
3日目	○	○	○	○	X	X	X	○	X	○

は注意が必要。

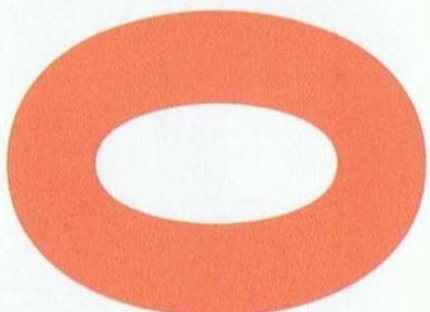
そして、SQである11日の寄り付き後の動向に投資主体者の心理が表れるので注視する。また、連休直前の処理を避けるために18日以前の16日から行動が始まるだろう。月替わりの28日からは10月相場の兆しが見えてくる。

8 日 月 火 水 木 金 土
 2020 2 3 4 5 6 7 8
 9 10 11 12 13 14 15
 16 17 18 19 20 21 22
 23 24 25 26 27 28 29
 30 31

2020 9 月

10 日 月 火 水 木 金 土
 2020 4 5 6 7 8 9 10
 11 12 13 14 15 16 17
 18 19 20 21 22 23 24
 25 26 27 28 29 30 31

日	月	火	水	木	金	土
30	31	1	2 	3	4	5
6	7 	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17 	18	19
20	21 <small>敬老の日</small>	22 <small>秋分の日</small>	23	24	25	26
27	28	29	30	1	2	3



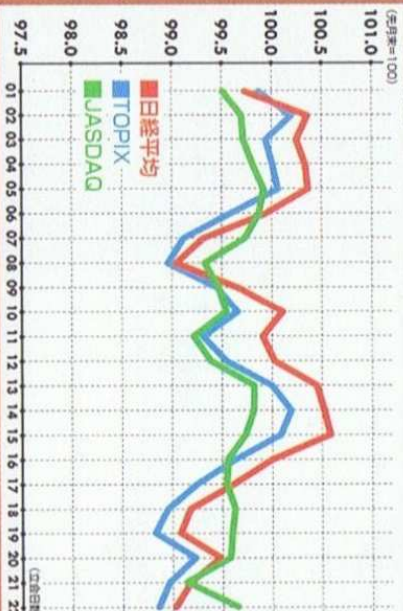
過去25年間の各指標の勝敗表

指標	勝敗	勝利率	12カ月中の順位
日経平均	11勝14敗	44.0%	8位
JASDAQ	10勝15敗	40.0%	8位
外資系動向	18勝7敗	72.0%	5位

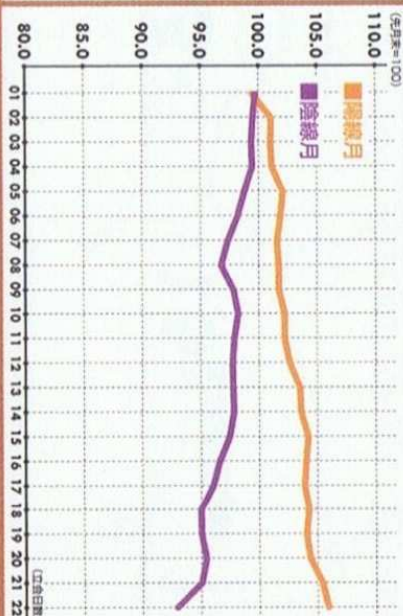
過去10年間の月足&外資系動向

	04年	05年	06年	07年	08年	09年	10年	11年	12年	13年
月足陽線	X	O	O	X	X	X	X	O	O	X
外資の買越し	O	O	O	O	O	O	O	O	O	O

主要指数の平均推移



日経平均の陽線月・陰線月



10月の傾向

- ① 中旬から後半にかけて極端な動きになりやすい。
- ② 政策や経済状況を見た需給優先の市場になるため、外資系投資家の動きがポイントになる。
- ③ 公的学会やニュースにより、個別選別になりやすい。

源太の作戦

今年はSQ後の読みが非常に難しい。日米の連休や翌月受渡し「10月20日」から日が長く、最終の処分がずれる可能性がある。大事なものは、景気の先行きであるという視点を持つこと。

例年通りSQまでに手持ちは軽くして、SQの思惑が落ちつく15日の動向で判断し、動

Memo

Blank lined area for notes.

注視ポイント

- 1 日経平均は前半、後半と区別する
- 2 中旬以降は強気、弱気に偏りやすい
- 3 思惑や先読みだけで売買しない
- 4 外資系ポジジョンに細心の注意

気になる3日間の勝敗表

歴史的暴落日「10/20」をばさんだ3日間	04年	05年	06年	07年	08年	09年	10年	11年	12年	13年
1日目	O	X	X	X	O	O	X	O	O	X
2日目	X	X	O	X	O	O	X	X	O	O
3日目	X	O	O	X	O	O	X	X	X	O

きが弱ければ、即時に撤退。

21日辺りにバイオリスムが偏っているから注意。その日が良い展開ならば月内最終日まで安泰だが、手持ちは少なくして11月に備える。逆に弱い展開で21日に想定以上の下落となれば割り切りで「買い」。下げ幅が中途半端なら月替わりまで休むこと。

2020 November

令和2年 霜月

過去25年間の各指標の勝敗表

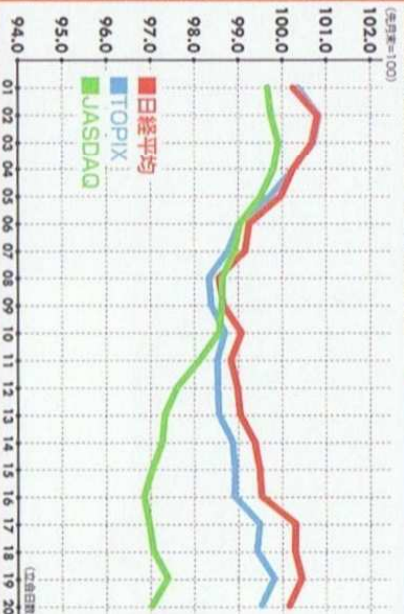
指標	勝敗	勝率	12カ月中の順位
日経平均	15勝10敗	60.0%	2位
JASDAQ	9勝16敗	36.0%	12位
外資系動向	17勝8敗	68.0%	7位

*勝ち(○)=月足陽線・外資買戻し(月数ベース)

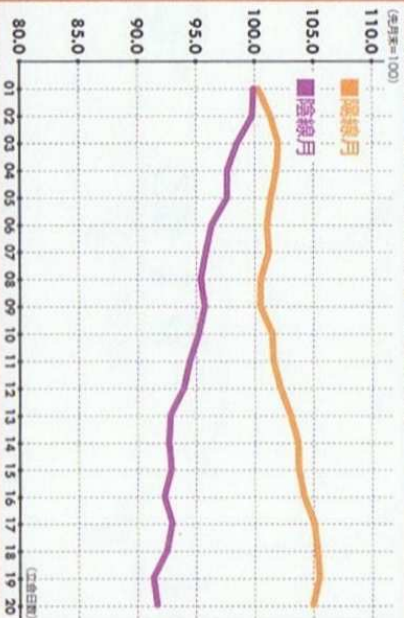
過去10年間の月足&外資系動向

	04年	05年	06年	07年	08年	09年	10年	11年	12年	13年
月足陽線	○	○	×	×	×	×	×	×	×	○
外資の買戻し	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○

主要指数の平均推移



日経平均の陽線月・陰線月



11月の傾向

- ① ヘッジファンドの決算時期のため指数が乱高下しやすい。
- ② 小型株などの個別株は最後まで難しい。
- ③ 来年に対する見通しが金融各社から出始める。

源太の作戦

通常であれば、月初に突っ込んだ指数系銘柄を買い、3連休後に個別株を買うのが順当。指数系と個別株の動きが異なるのはヘッジファンドは11月に決算が多く、対して一般ファンドは12月が多いから。個別株は月内最終日まで処分が続くことが多い。そのた

Memo

Blank lined area for notes.

注視ポイント

- 1 裁定買い残高と信用買い残高の水準
- 2 来期の景気見通し
- 3 IPOの有無
- 4 各国の金融政策

気になる3日間の勝敗表

11月最後の3日間 *ラストの2日間は連続になりやすい

	04年	05年	06年	07年	08年	09年	10年	11年	12年	13年
1日目	×	○	○	×	×	○	○	○	×	○
2日目	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○
3日目	×	×	○	○	○	○	○	○	×	○

*勝ち(○)=日足陽線

10 日 月 火 水 木 金 土
2020 4 5 6 7 8 9 10
11 12 13 14 15 16 17
18 19 20 21 22 23 24
25 26 27 28 29 30 31

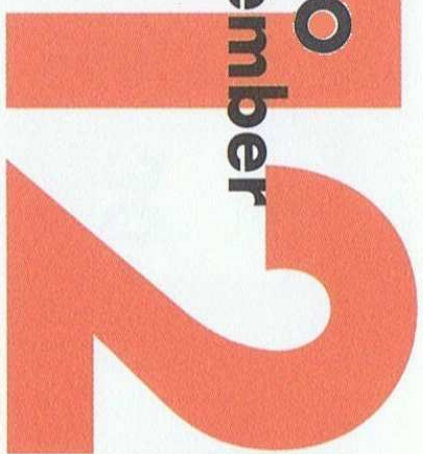
2020 11 月

12 日 月 火 水 木 金 土
2020 6 7 8 9 10 11 12
13 14 15 16 17 18 19
20 21 22 23 24 25 26
27 28 29 30 31

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3 文化の日 アメリカ大統領選挙 Tecumseh's course 映画: [Navy Shields]	4	5	6	7
8	9	10	11	12 SQ	13	14
15 新月	16	17	18	19	20	21
22	23 勤労感謝の日	24	25	26	27	28
29	30 新月	1	2	3	4	5

2020 December

令和2年 師走



過去25年間の各指標の勝敗表

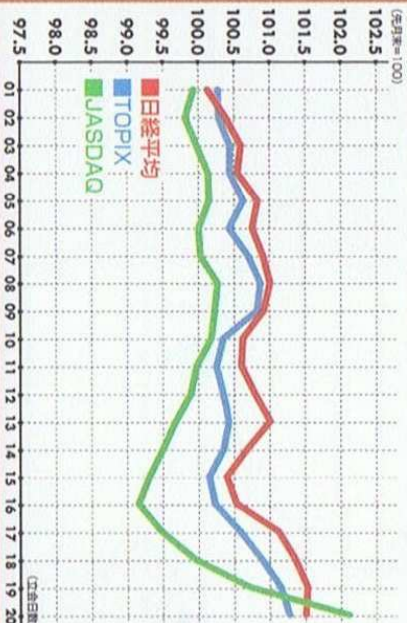
指標	勝敗	勝率	12カ月中の順位
日経平均	16勝9敗	64.0%	1位
JASDAQ	16勝9敗	64.0%	3位
外資系動向	20勝5敗	80.0%	2位

※勝ち(○)=月足陽線、外資買越し(日経平均)

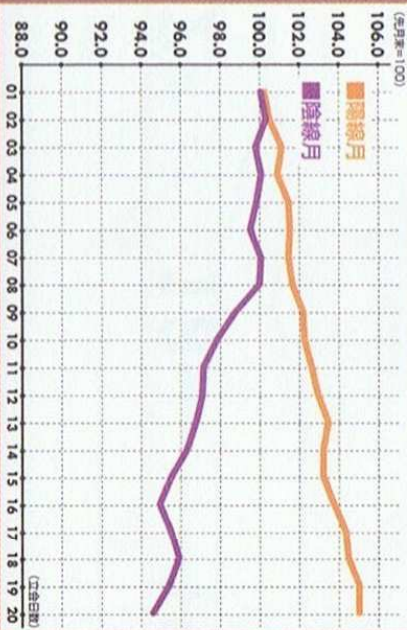
過去10年間の月足&外資系動向

	04年	05年	06年	07年	08年	09年	10年	11年	12年	13年
月足陽線	○	○	○	×	○	○	○	○	×	○
外資の買越し	○	○	○	×	×	×	○	○	×	○

主要指数の平均推移



日経平均の陽線月・陰線月



12月の傾向

- ①前半に乗れなかったら後半まで待つこと。
- ②大口個人投資家の税金対策などから個別株が突如売られることがある。
- ③ファンドの組み入れと決算要因で複雑な動きになる。

源太の作戦

11月末の突込み買いを短期投資と見る人は1日で銘柄を見直す。指数系投資の人はSQ前まで持続してもよい。このような細心の運用が必要な12月は、逆に長期投資的な視点で見るとよい。ヘッジファンドや投資の設定により、スタートは強くてもSQ辺りからクリスマス休暇を意識して

Memo

Blank space for notes.

注視ポイント

- 1 外資系レポートの来年の見通し
- 2 世界経済・日本経済の景況感
- 3 市場の出来高と個人のサイン
- 4 悲観や楽観が市場を支配する

気になる3日間の勝敗表

大塚会までの3日間 ※1票の一手は足さるのか?

※勝ち(○)=日足陽線

	04年	05年	06年	07年	08年	09年	10年	11年	12年	13年
1日目	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○
2日目	×	○	×	×	○	○	○	○	○	×
3日目	○	×	×	×	○	×	○	×	○	○

指数の動きが読みにくくなる。もし休暇に関係なく指数が強ければ、すでに外資系投資家の運用の方向性が固まっていると思うこと。一般的に参加者は減り、個人投資家が年末休暇を待って参加する。リスクを承知してキャンセルをするならば、年末は逆張りである。

11 日 月 火 水 木 金 土
 2020 1 2 3 4 5 6 7
 8 9 10 11 12 13 14
 15 16 17 18 19 20 21
 22 23 24 25 26 27 28
 29 30

2020 12月

1 日 月 火 水 木 金 土
 2021 1 2
 3 4 5 6 7 8 9
 10 11 12 13 14 15 16
 17 18 19 20 21 22 23
 24 25 26 27 28 29 30
 31

日	月	火	水	木	金	土
29	30	1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31	1	2

50



冬至

Christmas

元旦

2020年を勝ち抜くための必携アイテム
投資カレンダールミニ

投資カレンダールを読み解くための

“5つのポイント”を特別収録